

世界が称賛した美しいロッカー

それは「いつものこと」

中総体に向けて

個人として 長町中生として フェアプレーの精神で

明日から市中総体が開催されます。各運動部は日常の練習、そして対外試合等を重ね、いよいよ本番を迎えます。各部活動、そして一人一人の目標があると思いますが、事故無く、心身共にベストな状態で、臨んでほしいと思います。そして、本校の生徒には試合会場で、しっかりした立ち振る舞いを期待します。それは、大会関係者や保護者の皆様へのあいさつであり、マナーであり、応援等です。きっと昨日の大変立派な選手達の激励式での態度を見ると、大丈夫ですね。

前回のW杯サッカーロシア大会で、日本代表チームの行動が世界で大きな話題となった事を皆さんは知っていますか。決勝トーナメント1回戦でベルギーに惨敗してチーム全体が失意に沈んでいながらも、選手のロッカールームは試合前のようにきれいに掃除され、「スパシーバ(ありがとう)」とロシア語で書かれたメモが残されていたそうです。その事で、日本には世界から称賛の声が贈られました。とはいえ、これはベルギー戦に限ったことではなく、いつもやっていることなのだそうです。当時、代表キャプテンだった長谷部選手は、このように言っています。「自分達ではなく、代表を支えてくれるスタッフの方々が、僕たちが帰りのバスに乗った後にきれいに片付けてくれるのです。」しかし、スタッフの方々は「いいえ、それは違います。私達だけの力だけではありません。選手達が、ゴミが出れば、ゴミ箱に捨てて、きれいに整理整頓してくれるから、私達も掃除を手伝うのです。」と話しています。それが、選手、スタッフには当たり前の行為のようです。

日本に親善試合で訪れた対戦国のロッカーには、バナナの皮が散乱していたり、使い終わったテーピングなどが散らかり放題のこともあるそうです。ただ、そこには、文化の違いもあり、自分達が片づけてしまえば、清掃員の仕事を奪ってしまうという意識も働くのだそうです。

あの時は、試合終了寸前に、逆転されてしまい、選手もサポーターも、失意に打ちのめされたすぐ後でした。選手やスタッフはロッカールームをきれいにし、サポーターはスタジアムを清掃する。習慣になっていないと出来ない事ですよね。

皆さんも、対外試合のマナーやあいさつ、応援等すばらしい部活動が沢山あります。試合結果はもちろん大切だと思いますが、一人の人間として、集団としての立ち振る舞いも重要だと思います。指導していただいた先生方や、同じチームで頑張ってきた仲間、そしていつもお世話をいただいた保護者の皆様への感謝の気持ちを忘れずに、そのうえで、全力でプレーしてほしいと思います。そして、ずっと頑張ってきた同じチームの中に、試合になかなか出場できない友人がいることやプレーをしている時に全力で応援してくれる仲間、先輩、後輩達がいる事を決して忘れないでください。それだけでも一人の人間として大きく成長するきっかけとなります。

これまで数年間一つの事に取り組んできた「自分とは何か」をしっかりと考え、全力で頑張りたいと思いますし、誇りを持ってプレーしてください。

昨日の激励式での選手達の堂々した態度や決意表明、見事でした。そして応援する生徒の皆さんの態度、とても素晴らしいと思います。皆さんの健闘を心から祈っています。

3日間頑張りましょう。